



県評しずおか

静岡県労働組合評議会

〒422-8062
静岡市駿河区稲川2-2-1
セキスイハイムビルディング7階
TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973
Eメール kenpyo@mail.wbs.ne.jp



春闘山場で 宣伝とストライキ

3月15日、春闘要求実現に向け全国統一行動が行われ、静岡と浜松で早朝、駅地下と駅前での通勤途中の人達に春闘チラシの配布と宣伝をしました。

要求実現に向け ストライキ決行

訴えのマイクを握った林克県評議長は「昨日の14日、大手企業で回答が出された。日産3000円、本田1700円、スズキ2400円、電機関連は1500円と前年を上回ったが3%未満が大勢となっている。これからが中小企業の春闘本番、地域活性化のためにも大幅賃上げは必要だ」また「雇用、働き方も破壊する安倍『働き方改革』を阻止し、憲法改悪を許さず、安倍暴走政治を止めよう」と呼びかけました。



低額回答に抗議してシュプレヒコールする組合員と支援の仲間
=15日、電ビル前

度より4626億円、積み増し、グループ会社には従業員4割近くの非正規労働者がいますが「労働契約法」改正による5年目以降の無期雇用化を回避するため、選別・雇止めをしています。

格差と貧困の問題は 連帯で解決していこう

働くみんなの春のつどい

問題も緊急課題であり、憲法と労働環境改善にむけて有意義なつどいにしてください」とあいさつしました。



「働く」とはどんなことか。幸福とは縁遠い雇用の現実について話す笹沼先生=25日

3月25日(日)静岡県産業経済会館にてパート臨時労組連絡会の主催で「はたらくみんなの春のつどい」が開かれ50名が参加しました。



福祉保育労では、122名がワッペンを着用し保育をしました(写真)。保護者にチラシを渡すことで、ワッペン着用の意味を分かっていただけでした。

3月2日、全国一斉労働相談ホットラインを開催し、相談は35件と多くありました。当日はテレビ局2社が取材し、昼・夕方のニュースで放映した後、電話が殺到しました。

労働相談ホットラインに参加させていただきました。初めてということもありとても緊張しました。

相談は、ご本人よりも身内の方の働き方に疑問を感じていたり心配等が多いように思えました。孫が早朝から夜中まで働いているが心配。年次

職場復帰 常葉大学の不当解雇裁判

常葉大学短大部の過大な補助金取得の公益通報をきっかけに「パワハラ」を受け、それに対する告発を理由に大学から解雇処分がされました。

5月1日は労働者の祭典 みんなで参加しよう

2018年水爆禁止国民平和行進 歩こう 核兵器のない世界へ! 5月19日(土)~31日(木)

社都合により休んでいるが給料の支払いを受けていないなど深刻な相談もあり、会社がしなくてはならない事をしていない、労働者側が言いにくいことに乗じて、使用者が守るべきことを平然と放棄しているのは如何かと思う相談もありました。

震災から7年 いまだに 11万人が故郷に帰れない

「福島」を忘れない ～メモリアルアクションinしずおか～



震災被災者に黙とうを捧げる参加者=10日、静岡市常磐公園

3月10日、常磐公園で原発なくす会静岡を中心とした実行委員会の呼びかけで「3・10『福島』を忘れないメモリアルアクションinしずおか」を開催し200人が参加しました。

林克実行委員長（県評議長）は「昨年末、避難指示を解除されたが、帰還した住民は、放射線への不安から5%しかいない。また、政府は避難者5万7000人とやっているが、自主避難者などを数に入れて被災者を少なく見せている。いまだに約11万人の人が故郷に帰れないでいる」「サッカー選手の中田英寿さんが『何のために福島を忘れないのかと問いつけて』と言っている。福島は静岡にとって他人事ではない。福島に寄り添い交流をしましょう」と訴えました。

その後、餅つきを行い、杵を下ろすたびに元気よく



「原発ハイロ・ハイロ」の掛け声をかけました。

地質学者の塩坂邦雄氏は「浜岡原発の直下には『日断層』（中電は活断層でない）と主張）だけでなく南北の活断層の存在もある」と指摘。また海上にある取水管から大量の海水が敷地内に流れ込む。地盤の隆起や陥没により配管が損傷する恐れがある」など浜岡原発は危険だと話されました。

集会では、東日本大震災で犠牲になられた方々へ黙とうを捧げました。

「障害年金の日韓比較」

静岡県労働研究所 38

3月8日、定例研究会「障害年金に関する日韓比較研究―政策立案に対する当事者の参画を中心に―」と題し報告を磯野博氏（日本医療総合研究所協力研究員）が行いました。

日本の障害者運動は、当初、総評が「朝日訴訟」などの障害者運動を支援し、障害者所得保障を春闘要求に掲げました。1990年代以降、障害者団体は行政訴訟での問題解決に至りませんが、部分的な成果しか得

グローバル企業の規制は 国際的に連帯して行動を

インド・マルチスズキ事件

3月18日（日）、不当判決から1年目にあたる「インド・マルチスズキ人権侵害事件」への抗議と宣伝日本行動を浜松で開催し50名が参加しました。

代表世話人の林克県評議長は「インドでの労使関係でスズキが悪い影響を与えている。本社がある浜松で連帯して行動しよう」と呼びかけた。中澤秀一労働研究所所長は「グローバル企業にとって利益を上げるためには労働組合と人権とか邪魔ものだ。そのためこの組合つぶしが行われた。グローバル企業を規制するには国際的に連帯して行動していか



スズキは親会社として問題解決を図れと市民に訴え、浜松駅までパレード=18日

られませんでした。また障害者権利条約を反映した総合的制度改正を行うため、内閣府には推進会議が設置されましたが、提言は殆ど実施されていません。

韓国の障害者運動は、当初、社会変革運動のみで障害者問題は解決できると考えており、年金・介助サービスには関心がありませんでした。2000年代に、地下鉄や国鉄での転落事故を契機に、交通弱者移動便宜増進法が制定され、障害

職場の安全衛生を実現するために

静岡県安全健康センター No. 49

過酷な労働環境 脳梗塞で倒れる

労働相談を通じて、脳梗塞の労災申請の依頼がありました。Iさんは運送会社にお勤め、冷凍倉庫において冷凍食品の搬入、整理が仕事で、毎月100時間を超す時間外労働があり、深夜労働もありました（会社資料でも毎月26時間）。また、毎週休日出勤がありました。以上で脳疾患の労災基準を満たしています。

しかし、特筆すべきは冷凍倉庫内が極低温下の作業であったと言っています。Iさんは、室温がマイナス10度以下で終日作業、外とは夏で50度、冬で20度の温度差。Iさんは上着を6、7枚着て、ズボンを3枚はいて自衛していました。革手袋は凍ってしまいうので何度も変えました。適温で過ごす設備はなく、冬は短時間、自分の車で暖まるしかありませんでした。冷凍倉庫の配置はIさん一人。また、休めな為、数年間有給休暇がとれません。このような過酷な環境下で脳梗塞を起したのには必然です。むしろ命を失わなくては、室温がマイナス10

今、ローカルユニオンに加入し団体交渉をしています。今こそ、どの職場にもまっとうな労働組合の旗がなければ働く人の命が危ない時代になったと痛切に感じます。ちなみに、労基法36条は「サブプロクキョウテイ」で有名な条文ですが、その一項に但し書きがあり「健康上特に有害な業務の労働時間の延長は、1日について2時間を越えてはならない」と定め「懲役6月以下、罰金30万円以下での作業はこの「特に有害な業務」にあたります。



安倍政治NO! 鍋田敏子

長と全労連の布施恵輔国際局長とで国際電話トークを行いました。「今日インドでは、ほとんどの労働組合が『スズキ工場』をはじめ、自動車メーカーの現代やホンダでも大規模な集会を計画している」「マルチスズキの行動は他企業の見本ともなる」「スズキの地元浜松で活動してくれることに感謝している」など、話し

合いがされました。スズキの社長宛てに、今日の集会名で「一日も早い権利回復をマルチスズキ社の親会社として責任を果たすことを要請する」という要請書を提出することを全会一致で採択しました。集会終了後、浜松駅前までパレードを行い市民に訴えました。



「安倍内閣の総辞職を求める静岡緊急行動」森友問題の真相解明を「安倍さん辞めて!」と静岡駅地下道でスタンディング